

**平成30年度（平成29年度対象）**

# **教育委員会の点検・評価**

**平成30年8月**

**洞爺湖町教育委員会**

## も く じ

I	はじめに	1～2
	1. 点検及び評価とは	
	2. 洞爺湖町教育委員会の点検及び評価	
	(1) 評価の流れ	
	(2) 評価の対象	
	(3) 事務事業における評価者	
	(4) 評価シートの作成	
	(5) 達成度評価基準	
	(6) 行政評価委員による意見・提言	
	3. 教育行政評価の公表	
II	教育委員会の活動状況	3～6
	1. 教育委員会議の開催状況	
	2. 委員の活動状況	
III	事務事業評価及び評価委員の意見・提言	7～37
IV	資料 (別添)	
	1. 平成29年度教育行政執行方針	
	2. 平成29年度各種事務事業の実績等	

## I はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律（以下「改正法」という。）が、平成20年4月1日から施行されました。この改正法では、「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」が教育委員会に義務付けられています。

### 1 点検及び評価とは

教育行政の点検及び評価とは、洞爺湖町教育委員会が行っている行政活動（施策・事業）をどのような成果を上げたのかという観点から点検・評価し、その結果を改革・見直しに結びつけ、行政運営の質の向上を図るものです。また、住民にわかりやすく説明することによって、行政活動の透明性を高めるための経営手法でもあります。

#### (1) 点検及び評価の目的

点検及び評価の目的は、

- ①政策や行政活動（施策・事業）の質を向上させること。
- ②行政の説明責任を果たすこと。
- ③教育行政に対する町民満足度を高めることです。

### 2 洞爺湖町教育委員会の点検及び評価

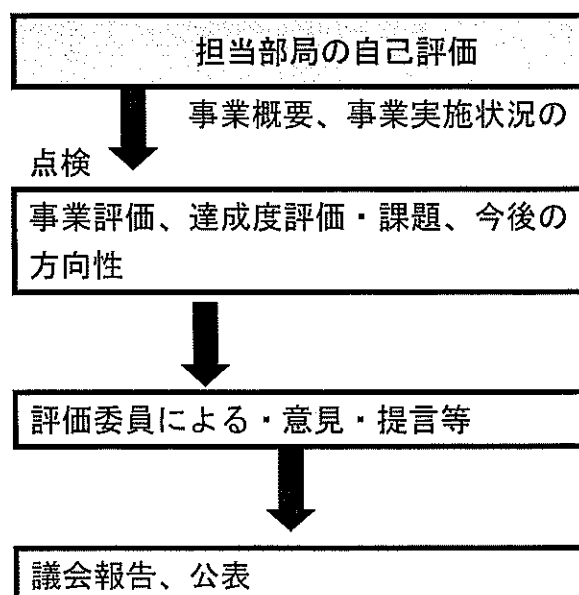
教育行政の点検及び評価をまとめて、「行政評価」とします。

#### (1) 評価の流れ

教育委員会による自己評価に外部の視点から評価委員の意見を組み込むことにより、行政評価の客観性や改革・見直しの実効性を高めていきます。

各担当部局では、全事務事業を対象に、所定の評価シートを用いて「自己評価」を行います。

その後、評価委員が各事務事業に対する意見・提言等を示します。



(2) 評価の対象とする事務事業

前年度の「教育行政執行方針」に明記された事務事業の主なものを評価対象とします。

なお、個々の事業をまとめた「主要施策」ごとに評価シートを作成し、評価事務の簡略化及び明確化を図ります。

※ 教育行政執行方針の括りを「推進項目」…大項目、「主要施策」…中項目、「事務事業」…小項目に分類します

(3) 事務事業における評価者

事務事業評価は、担当部局が評価者となり、評価シートは所管課が作成します。

(4) 評価シートの作成

- ①「主要施策」に括られた「事務事業」の概要を記載
- ②上記事務事業の実施状況を簡潔に記載
- ③事務事業ごとの決算額を記載（過去2カ年）
- ④担当部局の「評価」を事務事業ごとに簡潔に記載
- ⑤「達成度」について、下記の基準により評価し、簡潔な説明を記載
- ⑥「課題と対応方向」について、具体的に記載

(5) 達成度評価基準

評価対象事務事業について、事業の達成度についてA～Dの4段階で評価します。

評価	事業達成状況	
A	予定事業の実施状況について	概ね達成できた
B		一部に未実施があったが、達成度は比較的高い
C		未実施のものが多く、達成度が低い
D		ほとんど実施できなかった

(6) 行政評価委員による意見・提言

担当部局が作成した「主要施策」ごとの評価シートを行政評価委員に提示・説明し、施策・事業への意見・提言を求める。

3 教育行政評価の公表

行政評価委員の意見・提言等を記載した評価報告書を町議会に提出し、町ホームページ等で公表します。

<報告書内容>

- ①教育委員会活動報告
- ②事務事業評価シート
- ③教育行政執行方針（参考）

## II 教育委員会の活動状況

### 1. 教育委員会議開催状況

平成29年第2回臨時会 5月18日

番 号	案 件
報告第 9号	専決処分の報告について
報告第10号	管理課所管の各種事務事業の取組状況について
報告第11号	社会教育課所管の各種事務事業の取組状況について
指名第 1号	洞爺湖町教育委員会教育長職代理者の指名について
議案第26号	洞爺湖町立学校運営協議会規則の一部改正について

○協議会

平成29年第3回定例会 7月26日

番 号	案 件
報告第12号	臨時代理の報告について(洞爺湖町議会平成29年6月会議提出補正予算について(一般会計第1号))
報告第13号	管理課所管の各種事務事業の取組状況について
報告第14号	社会教育課所管の各種事務事業の取組状況について
報告第15号	各種警報発表に伴う休校等対応について
報告第16号	平成28年度洞爺湖町学校給食会計決算について
議案第27号	洞爺湖町立私立幼稚園利用者負担金等の軽減に関する助成要項の一部改正について
議案第28号	洞爺湖町洞爺地区等高校生通学費等助成に関する要綱の一部改正について

○協議会

平成29年第3回臨時会 8月29日

番 号	案 件
報告第17号	管理課所管の各種事務事業の取組状況について
報告第18号	社会教育課所管の各種事務事業の取組状況について
議案第29号	洞爺湖町表彰条例に基づく被表彰候補者の内申について
議案第30号	平成30年度から使用する小学校用教科用図書について
議案第31号	洞爺湖町通学路等交通安全推進会議設置要綱の制定について
議案第32号	洞爺湖町就学援助費の支給に関する要綱の一部改正について
議案第33号	平成29年度(平成28年度対象)教育委員会の点検・評価について

○協議会

平成29年第4回定例会 10月10日

番 号	案 件
報告第19号	臨時代理の報告について(洞爺湖町議会平成29年9月会議提出補正予算について)
報告第20号	管理課所管の各種事務事業の取組状況について
報告第21号	社会教育課所管の各種事務事業の取組状況について
報告第22号	平成29年度全国学力・学習状況調査(参考)の結果概要について
議案第34号	洞爺湖町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用者負担に関する条例施行規則の一部改正について

○協議会

平成29年第4回臨時会 11月22日

番 号	案 件
報告第23号	管理課所管の各種事務事業の取組状況について
議案第35号	虻高未来づくり推進委員会設置要綱の制定について
議案第36号	小学校外国語拡充に伴う授業時数確保の指針の制定について

○協議会

平成30年第1回定例会 1月24日

番 号	案 件
報告第1号	管理課所管の各種事務事業の取組状況について
報告第2号	社会教育課所管の各種事務事業の取組状況について
報告第3号	平成30年度当初予算要望概要について
報告第4号	臨時代理の報告について(洞爺湖町議会平成29年12月会議提出補正予算について)
議案第1号	洞爺湖町立学校管理規則の一部改正について
議案第2号	洞爺湖町招致外国青年任用規則の一部改正について
議案第3号	第3次洞爺湖町社会教育中期計画の策定について

○協議会

平成30年第1回臨時会 2月16日

番 号	案 件
報告第 5号	管理課所管の各種事務事業の取組状況について
議案第 4号	洞爺湖町立学校管理規則の一部改正について
議案第 5号	修学旅行の引率業務等に従事する調理学校職員の勤務時間の割振り等に関する要領の一部改正について
議案第 6号	洞爺湖町教育委員会職員懲戒審査委員会設置規程の廃止について
議案第 7号	さくら保育所の休止について
議案第 8号	平成30年度洞爺湖町一般会計予算（民生費・教育費関係）について
議案第 9号	平成30年度教育行政執行方針について

○協議会

平成30年第2回定例会 3月22日

番 号	案 件
報告第 6号	臨時代理の報告（洞爺湖町議会平成30年3月会議議会提出補正予算について（第8号））について
報告第 7号	平成29年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果概要について
議案第10号	洞爺湖町教育委員会部局の人事異動について
議案第11号	洞爺湖町立学校教職員の人事異動について
議案第12号	洞爺湖町立学校管理規則の一部改正について
議案第13号	修学旅行の引率業務等に従事する調理学校職員の勤務時間の割振り等に関する要領の一部改正について

○協議会

## 2. 委員の活動について

- 4月 3日 教職員辞令交付式
- 4月 6日・7日 小・中学校入学式
- 4月10日 虻田高等学校入学式
- 4月26日 洞爺湖町教育研究会総会研修会（洞爺湖温泉小学校）
- 4月27日 四者合同歓迎会
- 5月21日 洞爺湖マラソン大会
- 5月26日 管内教育委員会連絡協議会総会（室蘭市）
- 7月11日 北海道市町村教育委員研修会（札幌市）
- 7月28日 フレンドリーツアー三豊市小学生歓迎式
- 8月 1日 姉妹都市箱根町親善訪問使節団歓迎式

9月14日	北海道公立小中学校事務研究大会（洞爺湖文化センター）
10月 6日	とうや小学校公開研究会（とうや小学校）
11月 9日	学校訪問（虻田小学校・洞爺湖温泉小学校）
11月10日	保育所訪問（桜ヶ丘保育所・洞爺保育所）
11月16日	学校訪問（とうや小学校・洞爺中学校）
11月21日	学校訪問（虻田中学校・虻田高等学校）
11月22日	保育所訪問（本町保育所・入江保育所）
11月 3日	洞爺湖町表彰式
1月 7日	洞爺湖町成人式
2月20日・21日	胆振管内教育委員研修会
3月 1日	虻田高等学校卒業式
3月13日	洞爺中学校卒業式
3月14日	虻田中学校卒業式
3月16日	虻田小学校卒業式
3月20日	洞爺湖温泉小学校・とうや小学校卒業式



# 事務事業評価

## 及び評価委員の意見・提言

### 行政評価委員総括意見

平成29年度の教育行政執行方針に基づき実施した事業を25区分の主要施策に分け、主な事務事業について、各担当課の自己評価をもとに、第三者の立場から意見・助言を申し上げました。

評価対象の各種事務事業について、全体をとおして概ね予定どおり実施されており、住民が何を求めているかを理解して、課題の解決に向けた改善を図りながら進めていることが見て取れます。

この度の評価をとおして、特に次の点について申し上げます。

1点目は、保育士不足による事業推進への影響が懸念されており、難しいかもしれませんが奨学金制度の創設などは、有効な手立てになり得るのではないかと考えます。

2点目は、民法の改正により成人年齢が2022年4月から18歳に引き下げられることに伴い、成人式のあり方を今から検討する必要があると考えます。

これらの他にも課題はありますが、行政内部においても節目となる世代交代の時期が近い将来に訪れることを踏まえ、これら諸課題を解決するための筋道をしっかりつけて次の世代へ引き継いでいただくことに留意をしながら、今後の取組を進めていただきたいと思います。

#### ●洞爺湖町教育委員会行政評価委員

区 分	氏 名	摘 要
委員長	村上 正弘	洞爺地区
委 員	永井 信久	洞爺湖温泉地区
委 員	大西 栄美	虻田地区

事務事業評価シート

		担当課	管理課		
推進項目	I 幼児期の保育及び教育の推進				
主要施策	ア 子育て支援の充実				
取り組みの概要 (事務事業)	①保育所及び私立幼稚園の利用者負担額の軽減対策の実施(新規)				
	②一時預かり事業				
	③町内私立幼稚園への制度に基づく支援				
実施状況	①平成29年度より、洞爺湖町内に住所を有し就学前児童を扶養する保護者に対し、利用者負担額を2分の1助成することで経済的負担の軽減により子育ての支援を実施。				
	②平成26年度に子育て支援センターで試行し、平成27年度から常設保育所で本格実施。虻田地区は本町保育所、洞爺湖温泉地区は桜ヶ丘保育所、洞爺地区は洞爺保育所で実施。(各保育所定員1日2名) ※実績(述べ人数) 本町保育所 107名、桜ヶ丘保育所 73名、洞爺保育所 78名 計 258名				
	③町内私立幼稚園が、子ども・子育て支援法に基づく施設型給付施設へ移行したことにより、制度の趣旨を踏まえた給付費の支援を実施。(3/1 現在児童数 45名、うち洞爺湖町在住児童 36名)				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(29年度)	
		28年度	29年度	国・道	その他
	①利用者負担金助成	—	13,812	—	12,000
	②常設保育所運営事業(一時預かり事業)	6,236	6,122	3,014	469
③私立幼稚園施設型給付費事業	17,456	23,346	12,605	0	
評価	①利用者負担額を2分の1助成することにより、保護者の働きやすい環境を整えることができた。				
	②3地域でそれぞれ実施され、利用者も定着しており、地域の子育て支援のサポートができた。				
	③町内私立幼稚園が、新制度による施設型給付施設へ移行したことに伴い、当該施設と連携を図り、適切に給付を実施することができた。				
達成度	A	説明	予定どおり実施できた。		
課題と対応方向	課題		対応方向		
	①特になし		今後も継続して実施していく。		
	②1日利用者数の増加		利用者が増加傾向にあるが、現行の体制においては、利用者数を1日2名の定員を維持せざるを得ない状況であることから、現行を維持する。		
	③特になし		私立幼稚園施設型給付費事業は、大きな問題もなく実施することができた。		
評価委員の意見・提言	一時預かり事業については、利用者の希望に沿うよう取り組みを進めていただきたい。また、その他の事業については、今後も継続して進めていただきたい。				

平成30年度(平成29年度実施)

事務事業評価シート

		担当課	管理課		
推進項目	I 幼児期の保育及び教育の推進				
主要施策	イ 保育所の運営充実				
取り組みの概要(事務事業)	①幼・保・小連携の充実の活動推進				
実施状況	<p>①・小学校参観日等に所長若しくは保育士の参加により、学校での就学した児童の様子の見学を実施するとともに、意見交換を行った。</p> <p>・3月には保育所児童要録(小学校就学児対象)を個別に作成し、持参による提出で各小学校へ引継ぎを行い連携を図っている。</p> <p>・幼稚園でのイベントに保育所年長児が参加し交流を図った。</p> <p>・就学前児童の教育・保育の連携では、保育士及び幼稚園教諭、また今回初めて町内各小学校教諭の参加を得て「幼稚園教育要領・保育所指針をどう現場に生かすのか」をテーマとする合同研修会を行った。</p>				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(29年度)	
		28年度	29年度	国・道	その他
	①保育の質の向上のための研修事業	92	102	50	0
評価	<p>①児童要録は教育にかかわる視点で「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の項目で構成されており、具体目標に沿った児童の状況を記載している。小学校教員と直接引継ぎを行っているほか、学校側からの保育所への期待など確認し保育に取り入れている。平成30年度より適用される新保育所保育指針に伴い、保育士及び幼稚園教諭、小学校教諭の合同研修会を行い、認識の共有が図られた。</p>				
達成度	A	説明	予定どおり実施できた。		
課題と対応方向	課題	対応方向			
	①継続実施	<p>・今後も学校・幼稚園・保育所、教員・幼稚園教諭・保育士相互の交流を通じ、就学に向けて必要な連携を図っていく。</p> <p>・児童要録はより具体的に記載することにより、児童の状況をより具体的に引継ぎを行うことができる。記載の表現など研修を重ねていく。</p> <p>・保健師および小学校との連携により、支援を要する児童も含めたスムーズな就学に向けた取り組みを図る。</p>			
評価委員の意見・提言	幼・保・小のより一層の連携を深め、スムーズな就学に向けた取り組みに努めていただきたい。				

事務事業評価シート

		担当課	管理課		
推進項目	I 幼児期の保育及び教育の推進				
主要施策	ウ 子育て支援センター事業の推進				
取り組みの概要 (事務事業)	①子育て支援体制の連携				
実施状況	①・子育てセミナーは栄養士、保健師や社会教育課などとの連携のもと、事業を実施。 ・今年度は、親子ふれあい遊び「お父さんと一緒に遊ぼう」を初めて開催し、父親も参加しやすい日曜開催を取り入れて実施。 ・社会教育事業のブックスタートに同行し、幼児期の読み聞かせの大切さなど周知。 ・各保育所で月1回の保育所開放を実施し、保育所との連携を図っている。				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(29年度)	
		28年度	29年度	国・道	その他
	子育て支援センター運営事業	4,920	4,928	3,295	0
評価	①・子育て支援センターでは、子育て支援に関するアンケートを実施しており、各種事業は概ね好評を得ており、子育てセミナーは参加者の意向を踏まえ、毎回募集型で実施し参加しやすい環境づくりに努めた。特に今年度は、親子ふれあい遊び「お父さんと一緒に遊ぼう」を初めて開催し、父親も参加しやすい日曜開催を取り入れ好評だった。 ・保育所開放は各保育所月1回実施し定着している。 (利用延べ人数 保護者、乳幼児 863名)				
達成度	A	説明	予定どおり実施できた。		
課題と対応方向	課題	対応方向			
	①特になし	・子育てセミナーは、毎年実施している子育て支援に関するアンケートを踏まえて、より親しみのある事業内容の実施に努める。 ・保育所開放は定着しているので継続して行っていく。			
評価委員の意見・提言	今後とも充実した取り組みを願う。				

平成30年度(平成29年度実施)

事務事業評価シート

		担当課	管理課		
推進項目	I 幼児期の保育及び教育の推進				
主要施策	エ 保育施設の整備				
取り組みの概要 (事務事業)	①洞爺保育所の改築へ向けた取組				
	②本町保育所と入江保育所の統合移築の検討				
実施状況	①基本設計図面等をもとに保護者及び地域説明会を実施し、保護者の意見をくみ取りながら実施設計業務を実施。				
	②保育所の在り方検討案について保護者へ説明、また定例自治会長会議において説明をし、特に意見はなかった。保護者アンケート調査を実施(対象世帯57世帯)し、統合移築について概ね賛同を得た。				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(29年度)	
		28年度	29年度	国・道	その他
	①洞爺保育所新築基本設計業務	1,836		—	—
	①洞爺保育所新築工事実施設計業務		12,420	—	12,400
評価	①洞爺保育所利用者保護者及び地域住民を対象とした説明会を実施し、保護者等の意見を実施設計へ反映することができた。				
	②統合移築について、概ね賛同を得た。				
達成度	A	説明	予定どおり実施できた。		
課題と対応方向	課題	対応方向			
	①保育士の確保	0歳児保育の実施など、サービスの拡充を予定しているが、全国的な保育士不足の状況ではあるが、何とか保育士の確保を図っていく。			
	②開設場所の確保等	開設場所を含めた統合移築の検討。			
評価委員の意見・提言	洞爺保育所の改築に向けた取り組みにおいて、保育士の確保を図り、予定どおりに保育所運営ができるよう進めていただきたい。				

事務事業評価シート

		担当課	管理課		
推進項目	Ⅱ 学校教育の推進				
主要施策	ア 学校運営の充実《取組その1》				
取り組みの概要(事務事業)	①コミュニティ・スクールの洞爺地区での先行実施 ②土曜授業の試行的実施 ③小中乗り入れの実施				
実施状況	①洞爺地区で虻田地区に先がけて導入し、年3回協議会を実施した。また、虻田地区ではコミュニティ・スクールの導入に向け、教職員や保護者及び地域住民対象の研修会を実施した。 ②各小・中学校で年2～3回程度の土曜授業を試行的に実施した。 ③虻田中学校区及び洞爺中学校区でそれぞれに、小中乗り入れを実施した。 虻中⇄温小2回 ①英語指導で虻中教員がTT指導のT1T2として実施。 ②温小社会で体験入学時に虻中教員がTT指導のT2として実施。 虻中⇄虻小1回 ①虻小社会で体験入学時に虻中教員がTT指導のT2として実施。 洞中⇄とうや小5回 ①とうや小の英語(1回)や体育(4回)で単独あるいはTT指導のT2として実施。 ②夏季及び冬季休業及び体験入学時に各1回、中学生が小学生に算数や国語を教えたり、小学生に対しTT指導のT2として洞中教員が指導。				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(29年度)	
		28年度	29年度	国・道	その他
	①コミュニティ・スクールの洞爺地区での先行実施	0	67	0	0
	②土曜授業の試行的実施	0	0	0	0
	③小中乗り入れの実施	0	0	0	0
		0	0	0	0
評価	①予定どおり洞爺地区でコミュニティ・スクールの導入することができた。 ②試行的に実施したが大きな問題もなく実施できた。 ③小中乗り入れは、中学校区ごとに実施され、中学校教員が小学校の児童の実態把握ができたことや、小学生の中学校進学への不安感の減少につながるなどの成果等も確認されるなど、調査研究が進められた。				
達成度	A	説明	予定どおり実施できた。		
課題と対応方向	課題		対応方向		
	①次年度虻田地区で導入に向けた準備 ②次年度実施に向け、回数等の検討 ③特になし		①研修会等を実施する。 ②校長会を通して協議していく。 ③今後も積極的に取り組んでいく。		
評価委員の意見・提言	今後も地域の協力を得ながら、事業を継続していただきたい。				

事務事業評価シート

		担当課	管理課		
推進項目	Ⅱ 学校教育の推進				
主要施策	ア 学校運営の充実《取組その2》				
取り組みの概要(事務事業)	①ICT(タブレット)活用授業の調査研究 ②教育指導専門員の配置 ③全国学力・学習状況調査				
実施状況	①スタンダード 10 研修委員会が中心となり、洞爺中学校をモデル校としてタブレットを含めた環境整備を行った。また、町内小中学校の教職員を対象とした研修会を実施した。 ②引き続き1名配置した。(平成27年度から配置) ③平成 29 年度全国学力・学習状況調査を、町内全小中学校を対象に実施した。				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(29年度)	
		28年度	29年度	国・道	その他
	①ICT(タブレット)活用授業の調査研究	0	6,606	2,735	2,400
	②教育指導専門員の配置	3,125	2,682	0	0
	③全国学力・学習状況調査	0	0	0	0
評価	①洞爺中学校をモデル校として、ICT(タブレット)の環境整備を行い、タブレットを活用した授業の調査研究を進めた。 ②教育指導専門員の配置により、教育委員会として各学校へ専門的な指導、アドバイスができた。 ③全国学力・学習状況調査への参加及び独自の学力調査の実施により、現状の傾向や課題を把握し、分析することができた。				
達成度	A	説明	予定どおり実施できた。		
課題と対応方向	課題		対応方向		
	①活用方法、整備費用など導入に向けた検証 ②特になし ③全国学力・学習状況調査の結果活用		①洞爺中学校をモデル校として引き続き調査研究を進めていく。 ②引き続き配置を継続する。 ③学力向上に向けた取組として、全国学力・学習状況調査における現状の傾向や課題の把握、分析をはじめ各学校の取り組みの充実を図るため継続して実施する。		
評価委員の意見・提言	ICT(タブレット)活用については、整備費用や教育効果を見極めながら進めていただきたい。				

事務事業評価シート

		担当課	管理課		
推進項目	Ⅱ 学校教育の推進				
主要施策	ア 学校運営の充実《取組その3》				
取り組みの概要(事務事業)	①学習支援員の配置 ②独自学力検査の実施 ③次期学習指導要領における小学校での英語授業の対応準備				
実施状況	①基礎学力向上を図るために、学習支援員3名を配置した。 ②町独自の「標準学力調査(全面改訂版)」を実施した。 ③平成32年度からの本格実施に向け、各学校と授業時数確保等の指針を策定した。				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(29年度)	
		28年度	29年度	国・道	その他
	①学習支援員の配置	6,547	5,887	0	0
	②独自学力検査の実施	489	483	0	0
	③次期学習指導要領における小学校での英語授業の対応準備	0	0	0	0
				0	0
評価	①町独自の学力向上対策のための支援員の配置により、授業の円滑化や学習姿勢、意欲の意識向上とともに、学力向上も図られつつある。 ②町独自の「標準学力調査(全面改訂版)」を実施により、児童生徒個々の教科指導が図られている。 ③教育委員会として授業時数確保等について校長会と協議し、各学校と共有することができた。				
達成度	A	説明	予定どおり実施できた。		
課題と対応方向	課題		対応方向		
	①②学力の向上  ③外国語活動の指導助手の確保		①引き続き、学習支援員の配置を行っていく。 ②町独自の「標準学力調査(全面改訂版)」の実施など、引き続き支援を行う必要がある。 ③小学校3・4年生の外国語活動の指導助手を時間講師で対応する。		
評価委員の意見・提言	学力向上を図るには、学校教育のみならず家庭教育が大切であることから、家庭教育環境の充実を促すなど、家庭との連携に努めていただきたい。				



事務事業評価シート

		担当課	管理課			
推進項目	Ⅱ 学校教育の推進					
主要施策	イ 特別支援教育の充実					
取り組みの概要(事務事業)	①介護員・支援員の配置 ②指導計画・教育支援計画の充実					
実施状況	①特別支援教育支援員5名、特別支援学級介護員8名を配置した。 ②特別な支援を要する児童生徒への個別の教育指導計画や個別の教育支援計画の策定を順次進めており、全ての対象児童生徒の整備に向けて指導している。また、子どもたちの育ちと学びを支えるため、関係機関(医療、保健、福祉、教育、労働等)と連携しながら記入していく個別の支援ファイルを保護者に配布した。					
事業費	事務事業		決算額(千円)		特定財源(29年度)	
			28年度	29年度	国・道	その他
	①介護員・支援員の配置		19,909	20,856	0	0
	②指導計画・教育支援計画の充実 (支援ファイル「すくすく」作成費)		118	0	0	0
評価	①支援員及び介護員の配置により、特別な支援を要する児童生徒への柔軟な対応や、授業自体の円滑化を図ることができた。 ②個別の教育支援計画については、町内小中学校共通の様式を作成し、発達や発育を総合的に捉えることができ、子どもの課題も整理され、安心して子育てができる環境の一環を整えることができる。					
達成度	A	説明	概ね予定どおり実施できた。			
課題と対応方向	課題		対応方向			
	①介護員、支援員の確保 ②支援ファイルの活用促進		①授業を円滑に行うため、適正な配置を考慮しながら、継続して配置をする。 ②活用の充実を図るため、保護者・関係機関と連携・協議して進めていく。			
評価委員の意見・提言	介護員、支援員については、できるだけ学校の要望に沿うよう努めていただきたい。また、支援ファイルについては、有効活用を図るため、保護者に記入していただけるよう啓発に努めていただきたい。					

平成30年度(平成29年度実施)

事務事業評価シート

		担当課	管理課		
推進項目	Ⅱ 学校教育の推進				
主要施策	ウ 特別教育等の充実				
取り組みの概要(事務事業)	①環境教育、防災教育の推進 ②道徳教育の充実				
実施状況	①環境教育については、温泉小学校の「緑はどうなった」事業など、各学校の状況により実施された。特に防災教育では、ジオパーク野外学習テキストを基に、洞爺湖有珠火山マイスターの協力による体験学習授業。また、平成26年度より町内中学校2年生を対象とした避難所開設体験学習が行われ、避難所生活の話、居住スペースづくり及び避難所運営を模擬体験するゲーム「HUG(ハグ)」など、様々な体験を行った。 ②小学校は平成30年度、中学校は平成31年度から特別の教科『道徳』となり、小学校は教科書も採択された。				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(29年度)	
		28年度	29年度	国・道	その他
	①環境教育、防災教育の推進(避難所開設体験学習会)	42	27	0	0
	②道徳教育の充実	0	0	0	0
評価	①各学校の実情にあわせた防災教育・環境教育が行われている。また、避難所開設体験学習では、体験内容も実行委員会で検討を行い、内容の充実が図られてきている。 ②本格実施に向けて、道教委や道研修センターによる各種研修への道徳推進担当教諭の積極的な参加を促した。				
達成度	A	説明	予定どおり実施できた。		
課題と対応方向	課題		対応方向		
	①避難所開設体験学習の実施方法等の検討 ②教科化に向けた検討		①学校課業日の実施に向けて各学校と協議していく。 ②引き続き積極的な研修参加を促し、授業内容、評価方法の共通理解を図っていく。		
評価委員の意見・提言	環境教育は地域特性を生かして実施されている。また防災教育は絶対必要であり、どこにいてもその経験を生かすことができるので、今後とも事業の充実に努めていただきたい。道徳教育が教科化されることとなるが、より一層の充実に努めていただきたい。				

事務事業評価シート

		担当課	管理課		
推進項目	Ⅱ 学校教育の推進				
主要施策	エ 児童生徒の健康及び安全の充実《取組その1》				
取り組みの概要(事務事業)	①体力向上の推進 ②フッ化物洗口事業 ③いじめ、問題行動、不登校等への対応				
実施状況	①平成29年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査を町内全小中学校対象に実施した。 ②町内3小学校及び町内2中学校の全てでフッ化物洗口普及事業を実施した。 ③年2回の道教委のいじめに関するアンケート調査、学校独自のアンケート調査に加え、心理テスト(ハイパーQ-U)を実施した。また、必要に応じて、スクールカウンセラーの派遣を実施した。 不登校児童生徒については、読書の家において、教育指導専門員が児童生徒の心のケアも含めて学習の支援を行った。				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(29年度)	
		28年度	29年度	国・道	その他
	①体力向上の推進	0	0	0	0
	②フッ化物洗口事業の実施	250	311	0	0
	③いじめ、問題行動、不登校等への対応	225	226	0	0
		0	0	0	0
評価	①全国体力・運動能力、運動習慣等調査への参加により、現状の傾向や課題を把握し、分析することができた。また、平成29年度は全国平均を上回る結果を残した。 ②保護者の理解を深め、関係機関と連携を図り、フッ化物洗口事業を円滑に実施できた。 ③アンケート調査や心理テストの結果を検証し、いじめに関する早期発見及び所要の対応を的確に実施することができた。また、必要に応じたスクールカウンセラーの派遣により、円滑な学校運営を図ることができた。不登校児童生徒については、教育指導専門員の努力もあり、一部生徒の登校につながることができた。				
達成度	A	説明	予定通り実施できた。		
課題と対応方向	課題		対応方向		
	①特になし ②特になし ③心理テストの回数の見直し		①体力向上のため、各学校の取組充実と併せ現状の取組を推進していく。 ②今後も継続して実施していく。 ③いじめに関しては、当町独自のいじめ防止基本方針の策定を進める。また、スクールカウンセラーの派遣については、今後も継続する。心理テストについては、1~2回へ回数を増やして実施していく。		
評価委員の意見・提言	今後とも事業の充実に努めていただきたい。				

事務事業評価シート

		担当課	管理課			
推進項目	Ⅱ 学校教育の推進					
主要施策	エ 児童生徒の健康及び安全の充実《取組その2》					
取り組みの概要(事務事業)	①通学路の安全確保 ②各種安全教室等の開催					
実施状況	①町内各小学校から通学路危険箇所等の提供をもらい、通学路等交通安全推進会議の立ち上げを行った。(新規) ②地震や火災を想定した避難訓練、交通安全教室、薬物乱用防止教室などの実施。					
事業費	事務事業		決算額(千円)		特定財源(29年度)	
			28年度	29年度	国・道	その他
	①通学路の安全確保		0	0	0	0
	②各種安全教室等の開催		0	0	0	0
評価	①通学路の安全確保について、推進会議を立ち上げ、推進プログラムを策定した。 ②各種安全教室の実施により、児童生徒の安全対応能力や防犯意識の向上が図られた。					
達成度	A	説明	予定通り実施できた。			
課題と対応方向	課題			対応方向		
	①特になし ②特になし			①通学路の安全確保に向け、合同点検を実施し、安全対策の推進に努める。 ②今後も各学校の実情に応じて継続する。		
評価委員の意見・提言	児童生徒の安全確保が第一である。今後とも、事業充実の取組を進めていただきたい。					

事務事業評価シート

		担当課	管理課		
推進項目	Ⅱ 学校教育の推進				
主要施策	才 高校教育の充実				
取り組みの概要(事務事業)	①虻田高校への支援 ②今後のあり方の協議				
実施状況	①虻田高校生徒募集活動、部活動及びバレーボール部寮の維持経費等の補助を行った。 ②今後の支援を含めたあり方を検討するため、虻高未来づくり推進会議を立ち上げた。				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(29年度)	
		28年度	29年度	国・道	その他
	①虻田高校への支援	4,131	4,015	0	0
	②今後のあり方の協議	0	70	0	0
評価	①生徒募集活動等必要な支援を行うことができた。 ②虻高未来づくり推進会議を立ち上げ、次年度に向けた支援内容について検討・協議を行った。				
達成度	B	説明	達成度は比較的高い		
課題と対応方向	課題		対応方向		
	①入学者増につながる支援策 ②虻田高校の魅力化、支援のための協議会活動の推進		①②今後も虻高未来づくり推進会議で虻高の魅力化の発信及び入学者増となるような支援策を検討・協議していく。		
評価委員の意見・提言	今後のあり方について、中学生の卒業者が減少していくなど難しい面もあるが、早急に結論を得て虻田高校の支援の充実に努めていただきたい。				

平成30年度(平成29年度実施)

事務事業評価シート

		担当課	管理課		
推進項目	Ⅱ 学校教育の推進				
主要施策	カ 学校施設の整備				
取り組みの概要(事務事業)	①学校施設の維持・管理の推進				
実施状況	①町内小中学校施設に係る工事及び修繕の実施。				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(29年度)	
		28年度	29年度	国・道	その他
	①学校施設の維持・管理の推進	13,103	10,180	0	0
評価	①学校施設の維持・管理については、児童生徒の安全を優先し必要箇所の工事、修繕を行った。				
達成度	A	説明	当初予算計上分及び緊急を要する修繕は予定どおり実施できた。		
課題と対応方向	課題		対応方向		
	①老朽化した施設の改修		①学校施設の長寿命化計画等、老朽化対策を計画的に行っていく必要がある。また、洞爺中学校体育館に設置している吊り天井の補強を併せて早期に実施していく。		
評価委員の意見・提言	児童生徒が健やかに学校生活を送ることができるよう、学校施設の維持、管理に努めていただきたい。				

平成30年度(平成29年度実施)

事務事業評価シート

		担当課	管理課		
推進項目	Ⅱ 学校教育の推進				
主要施策	キ 地域交流事業の充実				
取り組みの概要(事務事業)	①箱根町との中学生交流 ②洞爺湖子ども芸術文化フェスティバル				
実施状況	①町内2中学校の生徒6名と箱根町中学生6名が、町の代表として互いの町の親善訪問を実施。 ②昨年に引き続き、町内小・中学校の全児童生徒の参加により、合唱等を発表した。				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(29年度)	
		28年度	29年度	国・道	その他
	①箱根町との中学生交流	858	869	0	0
	②洞爺湖子ども芸術文化フェスティバル	240	480	0	480
評価	①姉妹都市箱根町と定期的実施している事業は本事業以外なく、親善交流の大きな柱の1つとして有効な事業である。(訪問～49回目、来町～51回目) ②芸術文化フェスティバルについては24回目となった。昨年に引き続き、全校の児童生徒が参加し、町民の方々から好評を博した。各学校の発表を通して他校の児童生徒の良さに気づき、音楽活動等への意欲向上に結びつけることができた。また、地域住民に学校での教育活動の成果の一端を発信することができた。				
達成度	A	説明	予定通り実施できた。		
課題と対応方向	課題		対応方向		
	①特になし ②土日開催などの検討が必要。		①内容等を検討しながら引き続き実施する。 ②今後、全校児童生徒の参加の継続や多くの地域住民に見ていただくため、土日開催など実施時期を検討していく。		
評価委員の意見・提言	洞爺湖子ども芸術文化フェスティバルについては、今後においても地域の方々に観ていただくことができるよう、土日開催の継続に努めていただきたい。				

事務事業評価シート

		担当課	管理課		
推進項目	Ⅱ 学校教育の推進				
主要施策	ク 進学支援の充実				
取り組みの概要(事務事業)	①育英資金貸付及び給付事業				
実施状況	<p>・返済を要しない入学時給付金の給付。                  【入学時給付金】                  給付金額 高校・中等教育学校・高等専門学校5万円、専修学校・大学10万円                  29年度給付実績～高校生6名、専門学校0名、大学生4名)</p> <p>・勉強意欲のある学生への学資金等貸付。                  【学資金】                  貸付基準額(月額以下の金額以内)                  公立高校1万円、私立高校1万円、高等専門学校1,3万円 専修学校・大学1,8万円                  29年度貸付実績～公立高校2名、私立高校1名、高等専門学校0名、                  専修学校・大学2名</p> <p>【入学時一時金】                  貸付基準額(以下の金額以内)                  公立高校20万円、私立高校30万円、高等専門学校30万円、専修学校・大学50万円                  29年度貸付実績～公立高校2名、私立高校0名、高等専門学校0名、                  専修学校・大学4名</p>				
事業費	事務事業	貸付額等(千円)		特定財源(29年度)	
		28年度	29年度	国・道	その他
	①育英資金の基金貸付及び給付事業	2,606	3,192	0	3,192
評価	①育英資金基金を活用して勉強意欲がある学生・保護者への経済的負担を軽減することができた。				
達成度	A	説明	予定通り実施できた。		
課題と対応方向	課題	対応方向			
	①貸付条件等の緩和	学資金については、ふるさと納税の指定寄附により資金の確保はできている。貸付の利用は少ないが、さらに有効に運営していく。			
評価委員の意見・提言	今後も適正な運用に努めていただきたい。				



平成30年度(平成29年度実施)

事務事業評価シート

		担当課	社会教育課		
推進項目	Ⅲ 社会教育の推進				
主要施策	ア 第3次洞爺湖町社会教育中期計画の策定				
取り組みの概要(事務事業)	① 第3次洞爺湖町社会教育中期計画の策定(新規) (計画期間:平成30年度~平成34年度)				
実施状況	① 洞爺湖町社会教育委員会議において、策定に向けた検討を重ね、平成30年1月に策定。 洞爺湖町社会教育委員会議(策定に関する会議)5回 委員数15名 洞爺湖町社会教育委員長への諮問 平成29年5月1日 洞爺湖町社会教育委員長からの答申 平成29年10月25日 パブリックコメントの実施(期間:平成29年12月15日~平成30年1月15日)				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(29年度)	
		28年度	29年度	国・道	その他
	① 第3次洞爺湖町社会教育中期計画策定事業	0	246	0	0
評価	① 第2次洞爺湖町の教育目標と教育ビジョン(計画期間;平成29年度~平成38年度)との整合性を考慮し、第2次中期計画まで継続実施してきた事業の他、新規で実施した事業の定着や充実を図り、乳幼児から高齢者までの生涯期ごと、スポーツ・文化における現状や課題、基本方向、主な施策の内容などを整理の上、策定することができた。				
達成度	A	説明	予定どおり実施できた。		
課題と対応方向	課題		対応方向		
	① 第3次中期計画の推進		ホームページ掲載等により住民に向けた周知を図る。 計画に沿った事業として整合性を見極めていく。		
評価委員の意見・提言					

平成30年度(平成29年度実施)

事務事業評価シート

		担当課	社会教育課			
推進項目	Ⅲ 社会教育の推進					
主要施策	イ 乳幼児事業の充実					
取り組みの概要(事務事業)	① ブックスタート事業(生後7カ月の乳幼児健診時に絵本を贈呈) ② 子育てメソッド形成事業(家庭教育に関する情報の提供) ※メソッド=目的を達成するための方法 ③ 子育てサークル等の活動支援(セミナー等の開催により親同士の情報交換の場の提供)					
実施状況	① 生後7ヶ月の乳児健診を利用し、本を通して親子のふれあいと心や言葉の発達を促し、子育てに対する意識を育てる事業(本の贈呈)を実施(参加56名) ② 小学校新入学児童説明会を利用して、保護者に対し家庭における余暇の過ごし方等の情報提供や資料配布により、親子のふれあいの時間を考える機会の提供 ③ 関係機関との連携による開催(3回-59名)					
事業費	事務事業		決算額(千円)		特定財源(29年度)	
			28年度	29年度	国・道	その他
	① ブックスタート事業		26	34	0	0
	② 子育てメソッド形成事業		0	0	0	0
③ 子育てセミナー		0	0	0	0	
評価	① 親子で絵本を楽しむ時間の提供として予定どおり実施できた。 ② 保護者に対し、家庭でテレビやゲームのスイッチを切って読書や談話など、親子のふれあいの時間の大切さなどの情報発信により、家庭教育の推進が図れた。 ③ 子育て中の母親同士の情報交換や学習の機会を提供することができた。					
達成度	A	説明	予定どおり実施できた。			
課題と対応方向	課題		対応方向			
	① 贈呈後のフォローアップ		読書の家の活用案内などの利用促進。			
	② 事業の推進		情報の発信による啓発機会の充実。			
③ ー		関係機関との連携継続。				
評価委員の意見・提言						

平成30年度(平成29年度実施)

事務事業評価シート

		担当課	社会教育課		
推進項目	Ⅲ 社会教育の推進				
主要施策	ウ 少年事業の充実(取組その1)				
取り組みの概要(事務事業)	① 洞爺湖 GENKIDS(小4~中学生を対象とした社会体験クラブの実施) ② ボードゲームなど電子機器を使用しないゲームの奨励(新規) ③ 友好都市「三豊市」との少年交流事業(ふるさと・ふれあい・フレンドリーツアー)				
実施状況	① 登録会員22名で年間10回の体験活動事業等を開催。 ② ドイツゲームなど電子機器を使わない遊びの奨励。 ③ 小6対象に応募実施。参加費の一部負担あり。(三豊市児童来町23名、三豊市訪問~18名)				
事業費	事務事業		決算額(千円)		特定財源(29年度)
			28年度	29年度	国・道 その他
	① 洞爺湖GENKIDS		36	73	48 0
	② ボードゲーム奨励事業		0	0	0 0
	③ ふるさとふれあいフレンドリーツアー		1,332	2,007	0 938
評価	① 各体験事業の実施と共によりいきいき学園との世代間交流の実施にも繋げることができた。 ② ボードゲームは複数人が集まって実施されることから、コミュニケーション能力の向上が図れた。また、世代間交流としても有効だった。 ③ 相互訪問交流を通して友好関係を一層深めることができた。				
達成度	A	説明	予定どおり実施できた。		
課題と対応方向	課題		対応方向		
	① 登録者の増		周知の徹底。		
	② 参加者の増		定期開催等を通して魅力を発信。		
	③ 相互訪問時期の検討		小学校の授業時数確保から訪問時期を長期休み中に実施検討。		
評価委員の意見・提言					

平成30年度(平成29年度実施)

事務事業評価シート

		担当課	社会教育課			
推進項目	Ⅲ 社会教育の推進					
主要施策	ウ 少年事業の充実(取組その2)					
取り組みの概要(事務事業)	④ 放課後児童健全育成事業(町内3箇所において学童保育を実施) ⑤ 学校支援地域本部事業 ⑥ 学習支援事業「地域未来塾」の実施(公設の無料学習塾)					
実施状況	④ 虻田地区(風っ子)33名、温泉地区(洞爺湖クラブ)13名、洞爺地区(とうや児童クラブ)18名利用。 ⑤ 45組の個人・団体が学校支援ボランティアに登録。 ⑥ 6月～2月の期間中、小中学生を対象に母と子の館(虻田地区)、洞爺総合センター(洞爺地区)主会場として、曜日を定めて常設を実施。さらに中学生を対象に高校受験対策として洞爺湖町役場を会場に特設(1月)を実施。					
事業費	事務事業		決算額(千円)		特定財源(29年度)	
			28年度	29年度	国・道	その他
	④ 放課後児童健全育成事業		14,140	16,017	9,350	1,996
	⑤ 学校支援地域本部事業		13	22	14	0
⑥ 地域未来塾		2,452	1,725	1,159	0	
評価	④ 開所時間延長もあり、利用から好評をいただいている。 ⑤ 学校支援地域本部事業は、学校が求めるボランティアの活用が図られた。 ⑥ 学校、地域、行政等が連携し、平成27年度から実施した地域未来塾により、学習習慣を身に付け、基礎学力向上に向けた事業実施が図られている。29年度は母と子の館、洞爺総合センターでの常設開催で、小中学校別に曜日の振り分けを行うなど、実施回数・参加人数ともに利用実績の向上を図れた。(平成27年度延べ173人、平成28年度延べ1,065人、平成29年度延べ1,718人)					
達成度	A	説明	予定どおり実施できた。			
課題と対応方向	課題		対応方向			
	④ 事業の充実・体制確保		活動内容の充実。支援員の確保策を検討する。			
	⑤ 登録ボランティアの活用		全ての登録ボランティアの実践活動に向け、関係機関との連携を強化する。			
⑥ 事業の充実・体制確保		指導体制の強化。指導者の確保策を検討する。				
評価委員の意見・提言						

平成30年度(平成29年度実施)

事務事業評価シート

		担当課	社会教育課		
推進項目	Ⅲ 社会教育の推進				
主要施策	エ 青年・成人教育の充実				
取り組みの概要 (事務事業)	① 成人式、成人のつどいの開催 ② 人づくり育成事業の実施				
実施状況	① 新成人の前途を祝し、成人としての自覚を促す成人の集いの実施(出席 53名) ② 人材育成及び地域活性化を目的に国内先進地の視察研修費用を助成実施。 ・マンガアニメフェスタボランティアスタッフによる先進地視察(4名) ・JA 青年部による先進地視察(20名)				
事業費	事務事業		決算額(千円)		特定財源(29年度)
			28年度	29年度	国・道
	① 成人の集い	113	118	0	0
② 人づくり育成事業	0	446	0	0	
評価	① 式典は新成人として自らの行動に責任を負い、また、将来の社会を担う一員として自覚する機会となり、来賓や父兄などの参加をいただき実施した。 ② 人材育成、地域活性化のための研修として2団体の活用があった。				
達成度	A	説明	予定どおり実施できた。		
課題と対応方向	課題		対応方向		
	① 成人年齢の引下げ		成年年齢を引き下げる民法改正により、成人式の実施内容等の見直しを行っていく。		
② 活用の推進		事業の周知による制度活用の促進。各団体への事業説明を実施する。研修内容の発表の機会を提供する。			
評価委員の意見・提言					

平成30年度(平成29年度実施)

事務事業評価シート

		担当課	社会教育課			
推進項目	Ⅲ 社会教育の推進					
主要施策	オ 女性事業の充実		カ 男女共同参画事業の充実			
取り組みの概要 (事務事業)	① 女性団体の活動支援 ② 胆振女性リーダー養成研修参加 ③ きずな学級の開催(男女を問わず身近なテーマを掲げ、地域づくりや活動促進を考える講演会)					
実施状況	① 女性団体の活動支援をするための補助金の支出(150千円) ② 胆振女性リーダー養成研修への派遣 1名 ③ 未実施					
事業費	事務事業		決算額(千円)		特定財源(29年度)	
			28年度	29年度	国・道	その他
	① 女性団体の活動支援		150	150	0	0
	② 胆振女性リーダー養成研修		47	98	0	0
③ きずな学級の実施		19	0	0	0	
評価	① 女性団体に対する補助金により団体の自主的な活動の支援が図られた。また、30年度には北海道・東北婦人大会及び全道婦人大会という大きな研修大会が洞爺湖町で開催されることから人的な支援を含めて取り組みます。 ② 研修派遣に伴い、女性団体活動の中核を担う女性リーダーの養成を図ることができた。 ③ きずな学級については、講師や会場日程等の調整がとれず、平成29年度の開催は見送りとなった。					
達成度	B	説明	一部事業未実施。			
課題と対応方向	課題		対応方向			
	① 後継者の育成		会員の高齢化に伴う、後継者の育成。			
	② 参加者の確保		女性活躍の機会づくりのため継続した参加者の確保。			
③ 事業の充実		参加者の増。男女共同参画の醸成に繋がる内容の充実。				
評価委員の意見・提言						

平成30年度(平成29年度実施)

事務事業評価シート

		担当課	社会教育課		
推進項目	Ⅲ 社会教育の推進				
主要施策	キ 高齢者事業の充実				
取り組みの概要 (事務事業)	① 高齢者事業等の実施(いきいき学園の取組) (登録制による高齢者学級)				
実施状況	① いきいき学園 6月～3月の10回開催。登録会員:43名(男性:11 女性:32) 第1回始業式、少年の主張大会観覧 第2回軽スポーツフェスタ参加 第3回戦争と平和展見学・参加 第4回美術見学会(札幌市) 第5回健康づくり講話 第6回クリスマスツリーづくり 第7回そば打ち体験 第8回出前講座 第9回ドイツゲーム大会 第10回シルバー料理教室 参加延べ人数 280名				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(29年度)	
		28年度	29年度	国・道	その他
	① いきいき学園	243	167	0	0
評価	① 地域の指導者や学習資源を活用しながら多様な学習機会を提供し、参加者からの意見も伺いながら予定の行事を執り進めることができた				
達成度	A	説明	予定どおり実施できた。		
課題と対応方向	課題		対応方向		
	① 新規参加者の増		事業の周知。企画内容の充実。男性参加者の増加策を検討。		
評価委員の意見・提言					

平成30年度(平成29年度実施)

事務事業評価シート

		担当課	社会教育課			
推進項目	IV 芸術文化の振興					
主要施策	ア 芸術文化活動の充実					
取り組みの概要 (事務事業)	① 各種発表会等の開催・支援 ② 芸術鑑賞会の機会の提供					
実施状況	① 総合文化祭(虻田地区)、洞爺湖町民文化祭(洞爺地区)の実施 (洞爺湖町文化団体協議会) 展示部門 10/28~10/30 あぶた体育館 ステージ部門 11/4~5 あぶたふれ合いセンター (とうや文化協会) 展示部門 11/3~5 洞爺総合センター ステージ部門 11/23 ・ふれ合う心の文化広場 3/11 洞爺湖文化センター ※主催:洞爺湖町文化団体協議会 ・各種団体等との連携 町民ロビー展(開催回数 9回) ② 心に夢の灯をともし芸術鑑賞会 演劇「ピバーク」165名 ・美術見学旅行は、美術館や博物館を巡る鑑賞の機会を提供(8/9 15名)					
事業費	事務事業		決算額(千円)		特定財源(29年度)	
			28年度	29年度	国・道	その他
	洞爺湖町文化団体協議会活動運営事業		300	300	0	0
	とうや文化協会活動運営事業		100	100	0	0
	心に夢の灯をともし芸術鑑賞会		1,075	2,400	755	1,790
美術見学旅行		128	79	0	20	
評価	① 総合文化祭及び町民文化祭ともに、相互協力のもとに開催することができた。 町民ロビー展は、町内各団体や個人による作品発表の場となっている。 ② 芸術鑑賞会の実施に伴い、各分野における生の鑑賞機会の提供ができた。					
達成度	A	説明	予定どおり実施できた。			
課題と対応方向	課題		対応方向			
	① 人材の発掘・活動の支援		発表の場の提供、個人・団体の活動支援。			
② 芸術鑑賞機会の提供		25年度から5か年にわたり「心に夢の灯をともし芸術鑑賞会」と銘打って実施の鑑賞事業が終了。5年間の検証を行い 実行委員会等で今後の在り方等を検討。				
評価委員 の意見・提 言						



平成30年度(平成29年度実施)

事務事業評価シート

		担当課	社会教育課		
推進項目	IV 芸術文化の振興				
主要施策	イ 入江・高砂貝塚保存整備・運営の充実（取組その1）				
取り組みの概要 (事務事業)	① 高砂貝塚の保存整備事業 ② 縄文まつり等企画事業 ③ 史跡めぐりウォークラリー				
実施状況	① 高砂貝塚環境整備等経費 55,153 千円（高砂川水路整備、園路整備） ② 第9回縄文まつりの開催(入江貝塚公園 7/17 260名) 縄文ロビー講座の実施(入江・高砂貝塚館 8回 76名) 文化財防火デーの実施(1/27 14名) ③ 史跡めぐりウォークラリー(虻田地区)の実施 7/2 38名				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(29年度)	
		28年度	29年度	国・道	その他
	① 高砂貝塚保存整備事業	50,421	55,153	26,310	28,500
	② 縄文まつり等企画事業	75	81	0	0
	③ 史跡巡りウォークラリー	0	0	0	0
評価	① 平成27年度から6か年計画で周辺を含む整備を実施。今後も周辺整備を含めて専門家で構成する整備委員会の意見を聞き執り進めます。 ② 自治会や関係団体と連携し、縄文を学び、発信する機会が図れた、また、町内の貴重な文化財を火災等から守る意識を学ぶ機会となった。 ③ 郷土の理解と文化財等に関する学習、健康増進が図れた。				
達成度	A	説明	予定どおり実施できた。		
課題と対応方向	課題		対応方向		
	① 計画に基づく整備		年次計画による周辺施設を含めた整備。		
	② 参加者数の増		縄文への理解を深める内容の充実と周知。		
	③ ー		継続した取組。		
評価委員の意見・提言	。				

平成30年度(平成29年度実施)

事務事業評価シート

		担当課	社会教育課		
推進項目	IV 芸術文化の振興				
主要施策	イ 入江・高砂貝塚保存整備・運営の充実（取組その2）				
取り組みの概要 (事務事業)	① 縄文遺跡群の世界遺産登録推進事業 (北海道・北東北の縄文遺跡群として世界遺産登録に向けて4道県(北海道、青森県、岩手県、秋田県)の17遺跡からなる考古学的資産)				
実施状況	① 縄文遺跡群世界遺産登録推進事業 (世界遺産登録に向けた負担金)				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(29年度)	
		28年度	29年度	国・道	その他
	① 縄文世界遺産登録推進事業(負担金)	116	426	0	0
評価	① 4道県(本部は青森県)、構成市町などと連携し、世界遺産登録を目指し、各種会議や、世界遺産登録推進に向けて国会議員や北海道議会議員連盟等からなる総決起集会への参加などを通して推薦決定を目指して活動を行った。				
達成度	A	説明	予定どおり実施できた。		
課題と対応方向	課題		対応方向		
	① 推薦候補の選定		入江・高砂貝塚を含む「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界文化遺産登録に向けては、推薦候補として選定されるのが当面の目標であり、これに向けて関係機関と連携し取り組む。		
評価委員の意見・提言					

平成30年度(平成29年度実施)

事務事業評価シート

		担当課	社会教育課		
推進項目	Ⅳ 芸術文化の振興				
主要施策	ウ 文化財施設の充実				
取り組みの概要 (事務事業)	① 充実した施設の運用				
実施状況	① 洞爺地区、虻田地区の郷土資料館(室)は、当町における開拓の歴史や地域の発展に使われてきた貴重な用具などの資料を後世に伝承する空間として利用を図っております。				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(29年度)	
		28年度	29年度	国・道	その他
	① 郷土資料館特別展	0	0	0	0
評価	① 施設における収蔵展示資料については、地域の誰もが郷土を知るための詳細な解説板や解説資料冊子などを備え、訪れる見学者に対して、さらに歴史を学べる場として提供することができた。				
達成度	A	説明	予定どおり実施できた。		
課題と対応方向	課題		対応方向		
	① 利用者の増・定期的な展示替え		定期的な展示替えや、特定資料による特別展示の開催、周知により利用者の増加に努める。		
評価委員の意見・提言					

平成30年度(平成29年度実施)

事務事業評価シート

		担当課	社会教育課		
推進項目	Ⅳ 芸術文化の振興				
主要施策	才 読書活動の振興				
取り組みの概要(事務事業)	① 読書環境・活動の充実 ② 読書感想画・読書紹介文募集事業				
実施状況	① あぶた読書の家での読み聞かせ(定期)及び読書週間での読み聞かせイベントなどの実施。洞爺総合センターでは図書室まつりの開催(年1回) ② 読書感想画、読書紹介文募集事業(112名,112作品)				
事業費	事務事業		決算額(千円)		特定財源(29年度)
			28年度	29年度	国・道 その他
	① 読み聞かせ・図書室まつり		25	37	0 0
	① 読書の家維持管理事業		6,150	5,980	0 0
	② 読書感想画・紹介文募集事業		14	14	0 0
評価	① 子どもが読書に親しみ、本を読むきっかけづくりができた。また、学校や福祉施設へ毎月まとまった冊数を定期貸出することで利用促進が図られた。 ② 読書感想画、読書紹介文募集事業を洞爺湖ロータリークラブとの共催で継続実施。虻田中学校の全校取り組みもあり、応募数が飛躍的に増加した。				
達成度	A	説明	予定どおり実施できた。		
課題と対応方向	課題		対応方向		
	① 施設の利用促進		図書関連行事等の情報発信やサークルの支援に努める。		
	② 応募者数の増		共催団体と連携し、学校などへの働きかけに努める。		
評価委員の意見・提言					

平成30年度(平成29年度実施)

事務事業評価シート

		担当課	社会教育課		
推進項目	V スポーツ活動の推進				
主要施策	ア 体育振興事業の充実				
取り組みの概要 (事務事業)	① 体育振興事業の充実				
実施状況	<p>① スポーツの普及、推進を図るため共催、後援事業を含めて各種スポーツ大会や教室の開催において関係団体等との連携し、実施した。また、生涯スポーツのニーズに応え、出前スポーツの実施やレークスポーツなど地域の特性を活かした事業を実施した。</p> <p>体育協会やスポーツ推進委員などスポーツ関係団体による合同会議を実施し、それぞれの組織体制や取組、課題や対応などを話し合う機会を提供した。</p>				
事業費	事務事業		決算額(千円)		特定財源(29年度)
			28年度	29年度	国・道
	① スポーツ大会・教室の開催及び支援	1,150	1,256	0	0
評価	① スポーツ推進委員等の協力をえて、さまざまな種目を取り入れた各種教室の開催や各種大会などの支援が図られた。				
達成度	A	説明	予定どおり実施できた。		
課題と対応方向	課題		対応方向		
	① 体育事業の円滑実施		スポーツ推進委員等との連携により、円滑な体育事業の実施に努め、関係団体による合同会議の開催に向けて継続的に取組む。		
① スポーツ振興基金の改正検討		スポーツ振興基金の遠征費助成要項について、各近隣市町の制度を参考に内容改正に向けて基金運営委員会で検討。			
評価委員の意見・提言					

平成30年度(平成29年度実施)

事務事業評価シート

		担当課	社会教育課		
推進項目	VI 社会教育施設及び社会体育施設の充実等				
主要施策	ア 社会教育施設及び社会体育施設の整備				
取り組みの概要(事務事業)	① 施設の維持管理 ② 旧洞爺湖温泉中学校体育館の有効活用の協議				
実施状況	① 社会教育施設及び体育施設においては、各種関係団体などの連携の下、定期利用の調整をスムーズに取り組むことができた。 ② 旧洞爺湖温泉中学校の施設活用については、関係団体等と協議を重ね、校舎を解体、体育館を残し改修して、避難所の位置づけと地域やスポーツ団体の体育振興を図るよう今後の利活用について確認した。				
事業費	事務事業		決算額(千円)		特定財源(29年度)
			28年度	29年度	国・道 その他
	① 社会教育施設維持管理事業		11,468	13,298	0 1,762
	① 体育施設運営事業		11,860	13,280	0 661
	② 旧洞爺湖温泉中学校体育館活用協議		0	0	0 0
評価	① 社会教育施設及び体育施設の利用において、必要な修繕を行いながら、利用者の安全確保に努め、サークル活動の支援やスポーツ推進が図れた。 ② 旧洞爺湖温泉中学校体育館については平成28年度から庁内検討会議、地域検討会議の協議において「有効な利活用を図る」とし、29年度の庁内プロジェクト会議の協議においては今後の校舎解体、体育館改修スケジュールなどをとりまとめた。				
達成度	A	説明	予定どおり実施できた。		
課題と対応方向	課題		対応方向		
	① 一		施設利用者の安全に努め、適正な維持管理を行う。		
	② 整備内容の協議		体育館の整備に向けて協議を進める。		
評価委員の意見・提言					

事務事業評価シート

		担当課	学校給食センター			
推進項目	Ⅶ 学校教育の推進					
主要施策	ア 学校給食の充実					
取り組みの概要 (事務事業)	①給食センターの管理・運営					
	②食育活動の充実					
	③虻田給食センター煙突設置工事の実施					
実施状況	①ハサップの衛生管理に基づいた給食提供を行った。給食提供では、アレルギーを持つ児童生徒への対応も行った。使用年数30年をこえて不具合が発生していた虻田給食センター蒸気回転釜1台を更新した。※提供児童生徒数 小学校提供児童数383名 中学校提供生徒数224名 虻田高校提供生徒数 9名					
	②安心・安全で栄養バランスの取れた給食提供を行うと共に、地場産(とうや湖農協及び生産者より直納)野菜を購入し給食材料に使用した。また、栄養教諭が各学校学年で食育授業を行い食の指導を行った。					
	③虻田給食センターボイラー排気用煙突について、施設の竣工年(昭和59年)からすると、石綿含有煙突用断熱材が使用されていると思われるとの前年調査結果を踏まえ、石綿飛散防止の為、既存煙突に代わり新設煙突を設置した。					
事業費	事務事業		決算額(千円)		特定財源(29年度)	
			28年度	29年度	国・道	その他
	①給食センターの管理運営費		43,507	46,484	0	0
	②食育活動の充実		0	0	0	0
③虻田給食センター煙突設置工事		0	5,076	0	0	
評価	①給食提供は1日約616食:年間117,040食を、調理後2時間以内に喫食出来る様に提供先6校へ適切に配送した。給食費については、両センター共に納入率100%を達成出来た。虻田給食センター 24,355,875円・洞爺給食センター 6,293,365円					
	②地場産の食材を積極的に活用し、また、栄養教諭による授業で食育の推進が図られた。					
	③虻田給食センターの煙突設置工事を行い石綿飛散防止を図った。					
達成度	A	説明	予定どおり事業が実施できた。			
課題と対応方向	課題		対応方向			
	①給食センターの管理・運営の検討		虻田、洞爺給食センター共に経年劣化が進んでいたため、機器類の更新等を図り長寿命化に努め、虻田給食センターの蒸気回転釜3台中残り1台の更新を行う。			
	②地場産品の使用拡大及び栄養教諭の活用		引き続き地場産品の使用を継続して行き、児童生徒、保護者へ洞爺産食材であることを給食献立表及び給食だよりを通じ周知をして行く。また、栄養教諭による食の指導の充実を図る。			
③特になし						
評価委員の意見・提言	今後も、地場産品の活用を図り、安全・安心な給食提供に努めていただきたい。					